

令和元(2019)年度 昭和女子大学附属昭和こども園 自己評価結果票

昭和こども園の教育・保育目標

「世の光となろう」という学園目標のもと、グローバル化が進む社会で、幼い子供たちが自立してたくましく、豊かな感性をもち、他者と協力して生きるための基礎を養うことを目指した保育・教育をおこなう。

広大で緑豊かなキャンパス内で、乳幼児から大学院生までと一緒に生活することから、各学校と連携する利点を生かし、児童・生徒・学生など異なる年齢の人々と触れ合うことから様々な経験し、自らの力で大きく育つことを目指している。

- ・「あそぶ」 元気な子 たくましい体
- ・「かんじる」 豊かな知恵 知的好奇心
- ・「かんがえる」 明るい心
- ・「はなす」 人と関わる力

本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・教育理念の「あそぶ」「かんじる」「かんがえる」「はなす」の実現を目指す
- ・教職員が研修で学んだことを実践し、なおかつ教員会議等で課題を共有することで、業務内容の向上に努める
- ・附属の特徴を生かし、大学生や生徒・児童、インターナショナルスクールの児童との交流を深める
- ・様々な利用形態から、保護者との関りや意識の調整に工夫を要する
- ・降園時に、日中の子どもの様子を伝える方法を検討し、保護者との信頼関係の構築に努める
- ・年度を明文化した事業計画を策定し、年間行事に取り組む

評価結果の表示方法	
A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	達成状況
教育理念の実現を目指す	専科指導や制作活動表現を楽しんでいる。人の話を聞く姿勢を養い、日常の保育や遊びの中で、子どもが自主的に取組み、子ども同士で自分の気持ちを伝え、表現し、話し合い共同的な遊びから学びを生み出している。園庭、学園内外を散策・散歩し、季節の移り変わりを感じ、多くの生き物を飼育し、緑の多い環境の中で、自然の虫や植物に触れる機会から子どもの感じる心を育てている。	A

研修や見学で学んだ知識・内容の 情報共有および活用	教職員が研修で学んだことや、他園を見学し収集した情報を教職員会議で報告・共有し、実践に結び付け、業務水準の向上と業務の効率化につながっている。	A
附属の利点を生かし、各部門との 交流を図る	大学生の教育実習や職場見学、中高生の保育実習、初等部児童との交流会をはじめ、夏季休暇期間には学生アルバイト、留学生のインターンシップ、中高生のボランティア活動を受入れ、また学園内に居住するプリティッシュスクールの生徒・児童との交流や、連携園である昭和ナースリーの園児との交流など、一年を通じて異年齢・異文化交流をおこなっている。	A
様々な利用形態による、保護者との 関りや意識の調整の工夫	保護者会日程は、利用者が出席しやすいよう土曜日に設定した。親子遠足、クリスマス会、運動会などにも保護者参加行事として、交流の機会を設けている また、父親を中心とする保護者の協力で、休日を利用した園庭整備などの活動がコミュニケーションの機会にも繋がった。	A
降園時に子どもの日中の様子を 伝える方法の検討	長時間利用や延長利用の子どもに対して、日中の様子や活動内容がわかるように、園内のモニターを利用し行事の様様を映像化したり、掲示板や園舎内にて写真を含めたお知らせを掲載している。	B
年度を明文化した事業計画を 策定し、年間業務に取り組む	前年度の運営を参考に、明確な事業計画を策定し、その実現に取り組んでいる。年間行事においても各担当者を配置し、遂行していくとともに、8つのプロジェクトチームを立ち上げ、教職員会議にて進捗管理をおこなっている。	A

今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
人材の確保と定員数増	広報活動に力を入れ、教員の求人を続ける。 HPの見直しや情報発信による関心度のアップを図る。
教育保育内容の改善	幼保連携型認定こども園として、教職員も保護者も全体でひとつの「こども園」という認識を深めるために、乳児と幼児の隔たりが感じられないように運営していく。
子育て支援事業の充実	近隣の未就園児親子が参加する在園児との活動や、マタニティ見学・相談、離乳食個別講座などを設け、引き続き地域の子育て支援機能を果たしていく。
自己評価・自己点検	運営と教育・保育の両面からの適切な点検および評価をおこなう。 東京都からの監査指摘事項やアドバイスを園の運営に役立てる。